

KIDS SMILE LABO JOURNAL



“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。
普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

「信じて送り出す」 ということ

今年も年長児のお泊まりキャンプを無事に終えることができました。
この日を迎えるまで、担任と子どもたちは少しずつ準備を重ねてきました。
期待で胸を膨らませる日もあれば、「夜眠れなかったらどうしよう」と不安を口にする日もありました。
保護者の皆さまも、そんな揺れ動く子どもたちの気持ちに寄り添いながら、当日を迎えるまでの過程そのものに成長を感じてくださっていたのではないのでしょうか。
そして迎えた当日の朝。
一本の電話が入りました。
「倒木の影響でキャンプ場へ向かう道が通れません。そして、その倒木が電線を切ってしまい、キャンプ場が停電しています。現在、状況を確認していますので、改めてご連絡します。」
自然の中へお邪魔する以上、予定通りにいかないこともあると考えていましたし、そうした予想外の出来事も自然の一部だと思っています。
ところが、その後すぐに続きの連絡が入りました。
「隣のキャンプ場に確認したところ、受け入れ可能とのことです。どうされますか？」
隣とはいえ、下見をしていない場所です。
さまざまな状況考えた末、私たちが出した答えは、「キャンプ場を変更して実施したい。保護者の皆さまに気持ちを伝えよう」というものでした。
子どもたちがこの日まで積み重ねてきた期待や準備、そして親元を離れ、自然豊かな環境で過ごす一日だからこそ得られる体験をできる限り実現してあげたい。その思いを率直にお伝えし、安全面についても丁寧に説明しました。
すると返ってきたのは、
「大丈夫です。」「園にお任せします。」「よろしくお願いします。」
そんな温かい言葉ばかりでした。
もちろん、不安なお気持ちはあったと思います。
それでも私たちが信じ、大切なお子さまたちを送り出してくださったこと。そして子どもたちに貴重な体験の機会を与えてくださったことに、心から感謝しています。
親元を離れ、自然の中にあるキャンプ場へ到着した瞬間の子どもたちの表情は特別でした。
どの活動にも目を輝かせ、期待にあふれ、少しだけ緊張も混ざっている。まさに頭も、心も、身体も、その瞬間をまるごと味わっている。そんな姿でした。その空気は、そばにいる私たち大人にもはっきりと伝わってきました。
朝のハブニングはありましたが、大人同士で何度も「やっぱり子どもたちとここへ来られて良かったね」と話していたことが印象に残っています。
お迎えの際には、保護者の皆さまも子どもたちの表情をご覧になり、たくさんのことを感じてくださったのではないのでしょうか。
どの子も本当に良い顔をしていました。
今回のお話はお泊まりキャンプでの出来事でしたが、日々の保育の中でも、保護者の皆さまは期待だけでなく、不安や心配を抱かれる場面もあることと思います。
そんな中でも、子どもたちの力、そして私たち職員を信じて見守ってくださっていることに、改めて深く感謝しています。
私たちは、体験が子どもにもたらす価値や、その先にある成長を信じています。だからこそ、大人の工夫や判断によって実現できることであれば、これからも安全も考えながら、子どもたちの「やってみたい」を守り、実現できるよう全力を尽くしていきたいと思っています。
お泊まりキャンプでの出来事も、何気ない日常の一コマも、いつか子どもたちの原体験や原風景となり、人生を支える大切な記憶になってくれたら嬉しく思います。
そして、「自分のやってみたいことを応援してくれる大人がいる」「信じて任せてくれる大人がいる」「一緒に体験し分かち合える仲間がいる」。そんな安心感を、子どもたちがこれからもたくさん感じながら育っていつてくれることを願っています。

保育園 KIDS SMILE LABO 園長 森 誉



kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO



Vol.54 2026

August

Over the past month, each class has been bustling with activity.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.
This is the page for the classes of children aged 3 to 5.

Minamo Ozora Daichi

text by Aiko Matsusaki

みんなで楽しむ 毎日のリズム運動の時間

5月中旬から朝の時間にリズム運動を取り入れ、約2か月。始めた頃は戸惑いや、途中で遊びに気持ちがいってしまう姿も見られました。しかし、毎日の積み重ねで子どもたちの姿も大きく変化しています。最近では「リズムしたい!」と子どもたちから声が上がったり、ピアノの音が聞こえると自然と集まってきたりするようになりました。終わりには「もっとしたかった!」と言うほど、楽しいひと時になっています。普段はラボで行っていますが、ときにはアミューの広いホールで行う日も。そんな日は朝からワクワクした表情を見せ、広い空間いっぱい体を伸び伸びと動かして表現しています。自分の番を待つ間は友だちの動きをよく見て学び、「つま先立てるよ」「顔は前を向くよ」と5歳児のだいちゃんたちが年下の友だちへ優しく声を掛ける場面も増えてきました。「上手だね」と認め合う姿も見られ、異年齢ならではの温かな関わりが自然と育まれています。二人組で人数が足りないときには、見ている子が「一緒にやるよ」と相手になってくれるなど、互いに支え合う姿に成長を感じます。繰り返し取り組む中で、子どもたちは体の使い方のコツをつかみ、思い通りに体を動かせる喜びを味わっています。難しかった動きも何度も挑戦して「できた!」という経験につなげ、自信を深めているようです。初めてのリズム運動にも興味をもち、真似をしながら一度経験するとすぐに覚えて楽しんでいます。「昨日の自分よりできるようになった」という実感が、意欲をさらに高めているようです。夕方の自由遊びにも自然とリズムが始まるほど、毎日の楽しみになっています。気温が高く戸外で遊ぶことが難しい時期だからこそ、これからもさまざまなリズム運動に挑戦し、体を動かす楽しさや達成感をたくさん味わえるようにしていきたいと思います。

五色の玉



ざりがに

難しいけど
みんな大好き!



とんぼ

かえる



金魚のひるね



あひる



ふじさん



めだか



うさぎ



両生類のはいはい



足の親指で床をキャッチして進みます!



かに



きしゃ



かめ



変身



かめからの3変化

ピアノの音色が3段階で
変化していきます!

あざらし



変身



ブリッジ

What's りずむ

KIDS SMILE LABO では、リズム運動という音楽に合わせて体を揺らしたり、転がったり、跳ねたりする「全身運動」を取り入れています。子どもの「見る・聞く・動く」といった、すべての成長の土台となる感覚や、自分の体を思い通りに動かす力を育てています。毎日続けることで、体がしなやかになりケガをしにくくなるだけでなく、脳や神経が刺激されて心（情緒）が落ち着き、集中力が高まる効果があります。性格のせいだと思われがちな「姿勢の崩れ」や「落ち着きのなさ」も、この運動を通して体の使い方が上手になることで、自然と整っていきます。子どもたちが「動きやすい体」と「やってみようという自信」を育み、毎日をのびのびと楽しむための大切な時間です。

Nobana

食に触れる時間

4月から「調理の日」が始まり、食に触れる時間がぐっと増えたのぼなさん。

エプロン・帽子・マスクをつけるのもすっかりお手のものになり、「今日はなに作るの？」と準備からワクワクがあふれています。

これまで、新玉ねぎの皮剥きやドレッシング作りやバナナアイス作りに挑戦してきました。目に染みる玉ねぎから目を逸らしながら皮を剥いたり、ダンスをしながら材料を混ぜたり、普段歌っているアイスの歌通りにアイスを作ったり、音や香りに触れて、作る楽しさを全身で味わっていました。

7月の調理では、いももち作りに挑戦。あたたかい芋の感触におそろのおそろ手を伸ばす子、思いきり握りしめる子、指先でちょんと触ってみる子...それぞれのペースで素材に向き合う姿があ



capt by Yumi Murayama

りました。自分で形を作ったあとは、フライ返しでひっくり返すことにも挑戦。「せーの！」の声に合わせて大人と一緒にべたん！と返すと、ぱっと笑顔が広がります。「できるかな...」とドキドキしていた子も、「一緒にやろう」の声にぎゅっと大人の手を握りながら挑戦。返せた瞬間のほっとした表情がとても印象的でした。また、普段芋を食べない子が、自分で作ったいももちをぱくり。「美味しい」とにこっと教えてくれる姿もありました。お分ほどの調理時間でしたが、小さな挑戦がいくつも生まれた時間でした。子どもたちは自分の不安を言葉にすることが難しいこともありませんが、挑戦できた瞬間と一緒に喜び合いながら、これからも「食に触れる楽しさ」を大切にしていきたいと思います。

Soyokaze

♪「あーあなたのおなまえは？」

友だちや保育者との関わりがますます広がってきたそよかぜさん。最近はおの時間、保育者がマイクを持って「あなたのおなまえは？」と歌うことを楽しんでます。初めは恥ずかしそうに黙っていた子も多かったのですが、繰り返し楽しむうちに少しずつ自分の名前を言えるようになり、保育者と一緒に歌を口ずさむようになってきました。また、友だちが名前を言うときに「〇ちゃん！」と呼んだり、拍手をして一緒に喜んだり、温かなやり取りが少しずつ増え、子どもたちの成長を感じるひと場面です。

だんだんと子どもたちの中で「マイクを使いたい！」「〇もやる！」と、自分もマイクを持ちたい気持ちが膨らんできたため、音の鳴るマイクを作りました。マイクを手にする、「あなたのおなまえは？」と歌いながら友だちと顔を合わせたり、マイクを差し

出したり、保育者の姿を真似っこ。マイクを持つことで歌やダンスへの意欲も高まり、体を揺らしたり手拍子をしたりと、思い思いに歌やダンスを楽しんでいます。

最近「もりのくまさん」や「おばけなんてないさ」が大人気。曲が流れると「くまさん！」と嬉しそうに声を上げたり、「おばけ〜！」と言いながらオリジナルの振り付けで踊ったりする子どもたち。友だちや保育者と顔を見合わせながら笑い合う姿に、心がほっこり温まります。

capt by Yumi Murayama



KIDS SMILE LABO KITCHEN

夏野菜で育てる「噛む力」

キッズスマイルラボキッチン

保育園KIDS SMILE LABOは毎日子どもたちに提供している給食は厚切りの野菜、無添加調味料を使用し、安全安心で、そして美味しく食べて美味しく食べて2343FOODLABOのキッチン、調理をしています。



夏になると、きゅうりやとうもろこし、なす、ピーマン、オクラ、トマトなど、おいしい夏野菜がたくさん並びます。

KIDS SMILE LABOでは、夏野菜を「旬だから食べる」だけではなく、子どもの「噛む力」を育てる大切な食材として取り入れています。

「よく噛んで食べようね。」

子どもにそう声をかけたことがある方は多いのではないのでしょうか。

でも、「噛む力」は声かけだけで身につくものではありません。

毎日の食事の中で、年齢や発達に合った食材を経験しながら、少しずつ育っていくものです。

離乳食が始まる頃は、やわらかく加熱した野菜を手で持ち、口へ運び、歯ぐきでつぶしながら「食べる」ことを学びます。きゅうりやとうもろこしは時期や硬さによっては注意が必要ですが、やわらかく調理した夏野菜も、子どもの発達に合わせて取り入れることができます。

幼児になると、口やあごの力が育ち、少しずつ噛み応えのある食材へと進んでいきます。グリルしたズッキーニやパプリカ、少し大きめに切った野菜、噛み応えのあるパンや手作りビスコッティなど、食材や調理法を工夫しながら「噛む経験」を積み重ねています。

噛むことで分泌される唾液には、食べ物の消化を助けるだけでなく、口の中を清潔に保ち、味を感じやすくし、歯を守るなど、子どもの健康を支える大切な働きがあります。また、よく噛むことは、あごや口の周りの筋肉や舌の動きを育み、食べる・飲み込む・話すために必要な口腔機能の発達にもつながります。

KIDS SMILE LABOでは、「噛むこと」は特別な練習ではなく、毎日の食事の中で自然に育つものだと考えています。

旬の野菜は、香りや色、食感が豊かで、五感を使って食べる楽しさを教えてくれます。夏野菜との出会いも、子どもにとっては大切な食体験のひとつです。

ご家庭でも「たくさん食べるこ」より、「よく噛んで味わうこと」を大切にしてみてください。

一口かじる。ゆっくり噛む。家族と「おいしいね」と笑い合う。

そんな夏の食卓での何気ない経験の積み重ねが、子どもの「食べる力」を育み、生涯にわたる健康な食習慣へとつながっていきます。

capt by Yumi Murayama



7人の絆深まる お泊まりキャンプ

text by Reiji Akamatsu

KIDS SMILE LABO で昨年初めて、園外で実施したお泊まりキャンプ。今年度は昨年とはまた違った環境でのお泊まりキャンプを計画しました。当日を迎えるまでの子どもたちは、楽しい気持ちと不安な気持ちが入り混じっている様子でしたが、園を出発する時には「いーい！」と元気な声をあげ、期待感に満ち溢れた出発となりました。

キャンプ場に到着すると、普段の散歩先とは違う自然の中で、「川の音がするね」「きもちいいね」と、豊かな自然を肌で感じ取る子どもたち。お弁当を食べた後はスイカ割りを楽しみ、「はやく川に入りたい！」と川へ。体にひんやりとした水の冷たさを味わいながら、ライフジャケットに身を任せて川流れに挑戦する姿もありました。はじめは「こわい」と話していた子も、繰り返し挑戦する中で「できた！」と自信や笑顔へと変わっていく表情が印象的でした。

川遊びの後は、自分たちで具材を決めたカレーと豚の生姜焼きを調理しました。川沿いに食事の場を整え、「おいしいね」「ちょっとしょっぱい！」と会話を楽しみながら過ごした夕食の時間。日が沈んだ後の焚き火の火付けでは、何度もマッチに挑戦し、火がついた瞬間には「だいみんなの力で火がついた！」と声があがりました。火を見つめながら「火が神様のところにいくんだよ」「七夕の願いを言うておこう」と語ったり、舞い上がる火の粉を見て「ちょうちょみたい」とそれぞれが感じたことを素直な言葉にして聞かせてくれました。

今回特に印象的だったのは、だいちさんの一体感です。焚き火にみんなで火をつけたことだけではなく、友だちが落とし物をしたら待っていてあげたり、忘れ物を一緒に取りに行ったりと、誰かが困っていると自然と手を差し伸べる姿が多く見られました。特別な声かけがなくても生まれるその関わりに、これまで共に過ごしてきた日々の積み重ねや7人で過ごす中で育まれた絆の深まりを感じました。

親元を離れて過ごす2日間は、子どもたちにとって大きな経験となり、一回りも二回りも成長する機会となったことでしょう。夜、眠りにつくまでの少し不安そうな表情を見ていると、一人ひとりの1日の様子が思い浮かび、胸がいっぱいになりました。

子どもたちの大きな成長の機会に携われていることをとても幸せだと思うと共に、子どもたちの経験を大切に考え、送り出してくださった保護者の皆様、そして私たちに任せてくださったことに、心より感謝申し上げます。この2日間の経験は特別なものではありませんが、そこに至るまでの日々の積み重ねがあってこそ生まれた時間でもあります。これからも一人ひとりの歩みを大切にしながら、子どもたちの育ちを丁寧に見守っていきたいと思います。



あいが割りからスタート！



浮かべたあ♡



脱力名入！



つめたーい！



バケツ抱っこして
ラッコみたい！



マッチで火付け



自分たちで
準備した物



隙間時間でカメラの
修行



夜ごはんはだいち特製カレー



大地みんなの力で火もつけたぞ！



歯磨きタイム♪



おやすみ～！



楽しい道のりを乗り越え、
滝へ



滝を見ながら朝ごはん



「歯が抜けた！」から
はじまる2日目

卒園児のりんちゃんに
インタビュー！
「どんなことをしたの？」



川流れのイメージは
ばっちり！



あーちゃんと
キャンプごはん会議！



部屋にヒルがでた！
塩だ！塩でやっつけよう！



みんなに報告「こうやって浮かんできたよ！」